

## 巖島神社の神像

鎌倉市文化財総合目録の彫刻篇に、巖島神社に木造神像四体（どれも立像で江戸時代の作）と木造の牛と馬の像が伝わっていると記載されています。小袋谷でこの文化財調査が行なわれたのは、昭和五一年度でした。彫刻については鎌倉彫刻研究の第一人者で跡見学園女子大教授の方が行ないました。しかし、それらがどんな形でどこにあるのか、その後どうなったのか何も分からないし、詳しい調査記録も見つかりませんでした。

それで何か手がかりがないか探すため平成十九年一月に氏子会の会長と神社社殿の奥にもぐってみると、そこに木製の黒い厨子がありその中は荒された感じで何かの一部分の様な物しかありませんでしたが、それらを写真に撮りその写真を市文化財課の学芸員や市中央図書館近代資料室の方に見てもらいました。総合的な判断で八臂弁才天と十五童子の可能性が高いということでした。又それらの像を並べる木の台も見つかり、その裏には「惣代」や「利左衛門」などの文字が書かれていて、それが名主利左衛門のことなら、一六六九年から一七五六年までの古文書に名前が載っていますが、一六六八年以前は名主の名を確認できる古文書が残っていません。また一七五七年以降には利左衛門という名主はおりませんので、神像や台の制作は一七五六年以前の可能性が有力です。今それらは公会堂で保管されています。